

今後の栽培管理につきましては、各営農経済センターの出向く営農担当・営農指導員が窓口相談と現地巡回指導を行いますので、お気軽にお尋ねください。

■ 水稻の栽培管理

● 田植後の注意点

1. 田植後～中干し時期の水管理

**活着期(田植～7日後)5～6cmやや深水
分けつ期(活着後～中干し前)2～3cmの浅水**

田植後しばらくは強風や低温から守るためにやや深水に、活着後は、分けつの発生を促すとともに、土壌の酸素不足を防止するため、浅水としましょう。

中干し：1株18本～24本程度(コシヒカリ)の茎数が確保できたら中干しに入ります。分けつ過剰のほ場が見られるので、田植後何日という時期ではなく、生育状況に応じた水管理が必要です。土壌表面が乾いて軽い亀裂が入れば中干しは終了となります。

間断灌水：中干し後、収穫直前まで、浅水→落水→浅水(飽水管理)を繰り返しましょう。

※飽水管理とは浅水から急激に落水するのではなく自然に落水するのを待ち、自然に落水できたらまた浅水にする管理方法です。

2. 除草剤(中期・後期)使用時の注意点

- ・使用基準を守り、適期に散布して下さい。
- ・使用する剤により使用時期が異なるので、ラベルをよく読みましょう。
※高温時に薬害が起こりやすいものもございますので、使用時期を必ず確認しましょう。
- 1) 中期剤の散布時にも、田面の露出が無いように、深さ5cm以上に水を張り、3日程度は水の動きを止める。
ただし、バサグラン粒剤は、落水後に利用する。
- 2) 後期(2・4-D粒剤)は、使用時期を特に注意して下さい。

3. 病害虫防除

使用基準(量、時期等)を厳守すること、またラベルをよく読み適正な使用をしましょう。

- ・葉いもち：箱粒剤をすることによって予防効果は高いが、多発の場合は追加防除が必要な場合もあります。
箱施用していない場合は本田防除が必要。(オリゼメート粒・オリブライトレ粒)
- ・ごま葉枯病：「みえのゆめ」で発生が多いので、対応した箱剤を使用していない場合は必ずオリブライトレ粒の散布を。
- ・害虫：イネミズゾウムシ、イネドロオイムシは、箱施用していない場合は本田防除が必要。
(トレボン粒剤、なげこみトレボン)
イネクロカメムシは、6月上旬より発生が予想されるので注意が必要。(スタークル粒剤)

4. 調整肥

稲体を健全にし、品質向上に効果があります。施肥時期は、出穂55日～45日前までです。

- ・珪酸加里：30～40kg/10a
- ・マルチサポート1号：20～40kg/10a
- ・PK化成55：20～30kg/10a
- ・粒状草木加里：20～30kg/10a

■ 農薬の適正使用を!!

- 水稻農薬の効果を安定して発揮させるためには、「水管理」が重要なポイントです。
- いくら効果の高い農薬を使用しても、散布後の落水やかけ流し、畦畔からの漏水で農薬が水田から流れ出てしまっ
ては効果が著しく低下してしまいます。
- 環境保全の観点からも水管理を徹底し、農薬が河川などに流れ出るのを防ぎましょう。
- 農薬の散布にあたっては、水路や周辺作物などに農薬が飛散しないように注意しましょう。

葉いもちの無人ヘリ防除を希望される方は最寄りの営農経済センター又はふれあい店まで
ご相談下さい。※集落で面積をまとめた上でご相談下さい。

使用した肥料名及び農薬名と散布量を稲作栽培こよみと栽培管理の記録へこまめに記帳しましょう!

JAからのお知らせ(お願い)

○ 令和3年産米の出荷契約の内容確認について

JAでは、現在令和3年産米の出荷契約申出数量の内容確認を行っており、この5月家庭訪問日に契約内容の確認通知を稲作農家の皆様へ送付させて頂きました。変更等ある方は下記日程までに連絡をお願いします。

最終の契約申込及び変更は、
5月25日(火)ですので、変更等
がございましたら、最寄りの営
農経済センター・ふれあい店・グ
リーンショップまでお願いします。

